

能下氣通雅

五臺山僧侈言沙羅樹靈異至畫圖鏤版然如巴陵淮陰安西伊洛臨安白下蛾媚山在

處有之開廣州南海神廟四本特高今京師臥佛寺二株亦有干霄之勢顧或著或不著草木亦有幸不

幸也綠水亭雜識

朱國祚臥佛寺詩傳聞蘭若春三月花比春彌陀院多惆悵芳時來獨後但聞風葉響娑

羅介石齊集

按に沙羅雙樹の事平家物語源平盛衰記の初に見えたれば引注すべし

〔和漢三才圖會八十三〕

娑羅雙樹喬木

翻譯名義集云娑羅此云堅固冬夏不凋故名堅固其樹類檉而皮青白葉甚光潤四樹特高其林森聳

出於餘林也故華嚴經音義翻爲高遠佛入涅槃已四方雙樹皆悉垂覆如來其樹慘然皆悉變白

按娑羅本名也雙樹其林也俗通曰娑羅雙樹比叡山有之其花白單瓣狀似山茶花而易凋酉陽雜

俎云娑羅樹花如蓮者與此異和州長谷寺有一株

〔日光山志四〕砂羅樹或砂羅雙樹とも唱へ常に夏椿といへり四五月比花さくゆゑにやされど

も椿とは大に異なり山中に多く生せり

〔平家物語〕祇園精舎之事

祇園精舎のかねのこゑ諸行むぢやうのひゞきありぢやうさうぢやうの花の色盛者必衰のこゝ

はりをあらはすおごれるもの久しからず唯春の夜の夢のごとしたりけき人もつるにはほろび

ぬ偏に風のまへのちりにおなじ

〔昆陽漫錄〕御柳

五雜俎曰今閩中有一種柳其葉如松而垂長數尺其幹亦與柳不類俗名爲御柳夫詩人之咏御柳不

過禁御中柳耳此則別是一種而強名之者也といまの御柳卽是なり

〔重修本草綱目啓蒙二十四〕

檉柳御柳通名

一名西河柳國書

御柳肇慶府志

西湖柳錦囊

菩薩

柳興化府志

細柳寧波府志

春柳通志

赤柳丹陽縣志

雨師柳王會新編